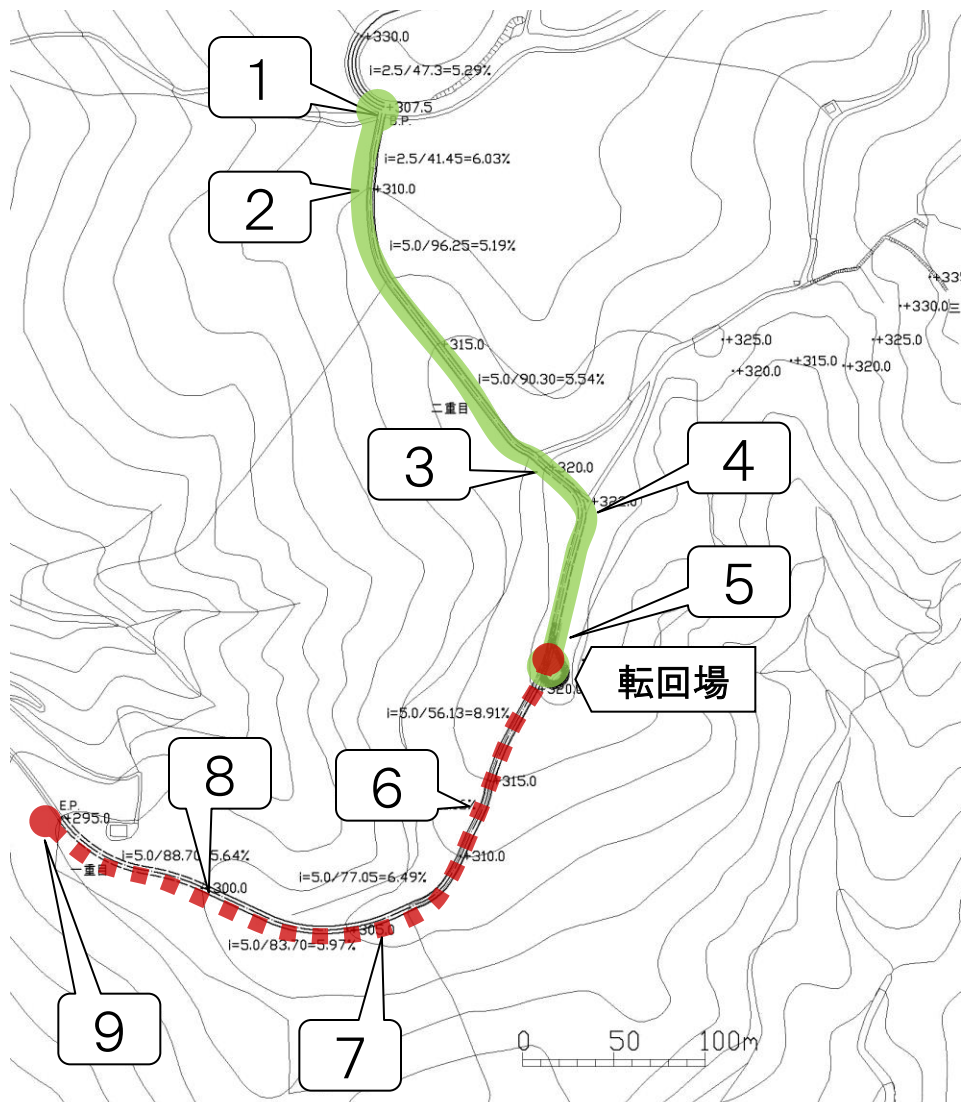


3. 移動支援手法の検討

(2) 【2】-1バSRルート案の検討

⑤評価



○バスの走行が可能な範囲→1~5(緑 着色区間)
・ ドライブウェイの分岐から二重目頂上付近の区間においては、縦断勾配9%以下であり、舗装を行うことでバスの走行は可能

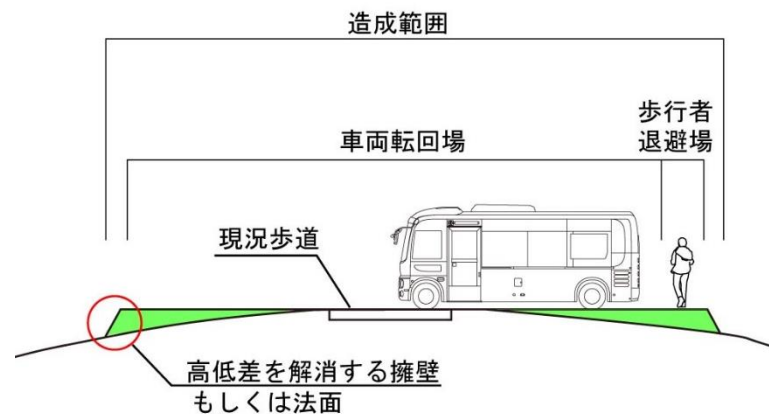
○転回場の確保が可能な箇所→5
・ 平坦な地形である二重目に転回場の確保が可能



バスルートの整備に向け、以下の課題がある。

- ・ 市内の視点場から若草山の尾根上にバスが走行・転回する姿が見える景観上の課題
- ・ 登山道とバスの走行ルートが重なることによる歩行者の安全確保上の課題
- ・ 転回場の確保のため造成および擁壁等の構造物の設置が必要となる環境配慮上の課題

「転回場整備イメージ」



3. 移動支援手法の検討

(2) 【 2）-2バスルート整備工法の検討 】

①環境配慮型工法

項目	芝舗装	土系舗装	木材チップ舗装
イメージ	 <p>ソッドレスターフ t=20 グラスミックス t=150 透水性フィルター 砕石路盤(単位厚砕石5号) t=100 埋戻 W200+H20 転圧ドレーン板 既存土壌</p>	 <p>表層・エクセレントソイル 3cm 路盤(クラッシュラン) 10cm</p>	 <p>ウッドファイバー舗装 3cm 透水性アスファルト舗装 4cm 砕石路盤</p>
概要	植栽基盤を耐圧基盤にすることで、芝生を保持しながら多目的広場や臨時駐車場等の耐圧を可能とした舗装。	土や砂等を固め自然な風合いと景観性に加え、透水・保水効果のある土系舗装であり、地元素材等を使用することが容易にできる舗装。	間伐材等の木材チップを破碎したウッドファイバーと湿気硬化型ウレタン樹脂を現地で混練りした後、敷きならし、締固めた舗装で木材特有の風合いと弾力性のある舗装。
環境性	雨水は浸透しやすい。 ○	雨水は浸透しやすい。 ○	透水性はあるが、目詰まりなどが起こる。 △
景観性 (周辺芝生との 一体性)	芝生活着時の景観は芝生と同等であり、周辺の芝生広場と調和しやすい。 ○	園路としては比較的自然而り、芝生広場との調和はあるが、一体感の創出は難しい。 △	園路としては比較的自然而り、芝生広場との調和はあるが、一体感の創出は難しい。 △
耐久性	臨時駐車場としては利用可能だが、管理用車両の通行に対応できるかは不明である。 △	主に歩道として使用されるものである。 △	主に歩道として使用されるものである。 △
維持管理性	通常の芝刈り、除草等の維持更新作業は必要。通常の芝舗装に比べ芝生は痛みにくいが、定期的な補修・部分的な張り替え等が必要。 △	経年劣化による補修が必要である。 △	経年劣化による補修が必要である。 △


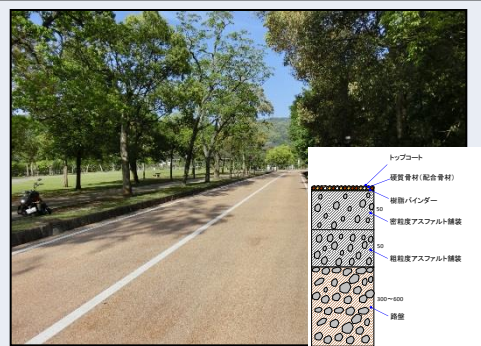



環境配慮型工法はバス等重車両の通行などにおいて実績に乏しく、耐久性や維持管理に課題

3. 移動支援手法の検討

(2) 【 2）-2バSRルート整備工法の検討 】

②環境配慮型以外の工法

項目	自然色アスファルト舗装	樹脂系自然石風薄層舗装	洗出しコンクリート舗装
イメージ			
概要	通常のアスファルトと同等の施工や性能を有しており、安定的な施工が行いやすい。	下地舗装体に樹脂を塗布したのち、硬質骨材を散布し、固着させる薄層舗装。	主骨材に天然の豆砂利を使用し、表面を洗い出すことで骨材のもつ自然の色や形をそのまま路面にみせる透水性の舗装。
環境性	透水性の適用も可能であるが、目詰まりなどが起こる。 △	密粒度アスファルト舗装上での施工のため透水性は無い ×	透水性の適用が可能ではあるが、目詰まりなどが起こる。 △
景観性 (周辺芝生との一体性)	園路としては比較的自然而あり、芝系舗装よりは景観性に劣る。 △	園路としては比較的自然而あり、芝系舗装よりは景観性に劣る。 △	園路としては比較的自然而あり、芝系舗装よりは景観性に劣る。 △
耐久性	アスファルト舗装と同等のため、耐久性に問題はない。 ○	アスファルト舗装の上に硬質骨材と樹脂によるオーバーレイを施しているため、耐久性に問題ない。 ○	アスファルト舗装と同等のため、耐久性に問題はない。 ○
維持管理性	ほぼメンテナンスの必要はない。 ○	ほぼメンテナンスの必要はない。 ○	ほぼメンテナンスの必要はない。 ○



環境配慮型以外の工法は耐久性、維持管理性において優位だが、環境性・景観性などの観点において課題。

3. 移動支援手法の検討

(2) 【 2）-2バスルート整備工法の検討 】

③工法比較・評価

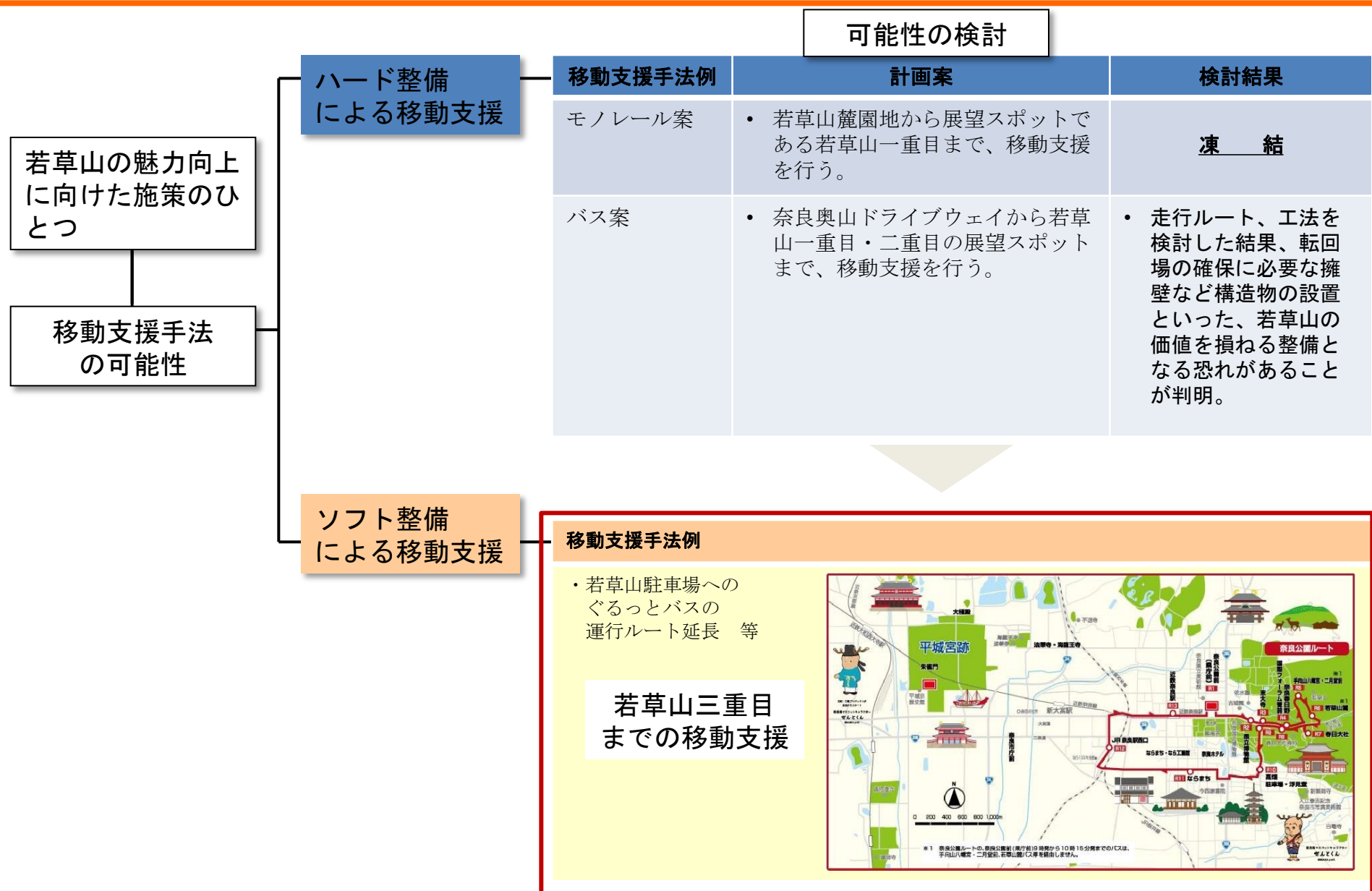
項目	環境配慮型工法			環境配慮型以外の工法		
	芝舗装	土系舗装	木材チップ舗装	自然色アスファルト舗装	樹脂系自然石風薄層舗装	洗出しコンクリート舗装
環境性	○	○	△	△	×	△
景観性 (周辺芝生との 一体性)	○	△	△	△	△	△
耐久性	△	△	△	○	○	○
維持管理性	△	△	△	○	○	○
総合評価	環境性・景観性で優位であるが、 耐久性・維持管理性に課題		全条件において 課題	耐久性・維持管理性で優位だが、景観性・環境性に課題		
	△		×	×		



- ・環境配慮型工法は実績に乏しく耐久性や維持管理性に課題
- ・環境配慮型以外の工法は耐久性・維持管理性で優位だが環境性・景観性に課題

3. 移動支援手法の検討

(3) ソフト整備による移動支援の検討



II. (仮) 登大路ターミナルの整備について

1. 目指すところ

検討フロー

1. 目指すところ

- (1) ターミナル機能・規模の検討
- (2) 奈良公園の魅力の向上

2. 整備に当たっての前提条件

- (1) 周辺状況
- (2) 関係法規制等の把握
- (3) 整備に当たっての前提条件

3. 計画案の検討

- (1) 計画案検討にあたって
- (2) 計画案
 - 1) 基本方針
 - 2) 整備イメージ
 - 3) 前提条件の対応内容
 - 4) 各計画の考え方